

ユーラシアの地域統合と経済協力：モンゴル参加の機会

モンゴル戦略研究所上級研究員
ソヨルゲレル・ニャムジャヴ

ユーラシア地域における機会

ユーラシアは自然資源、人口と経済的な資源からみて豊かな地域である。その豊かな石油、ガス、希少物質や非鉄金属は、世界経済の発展と技術向上の源泉となることが見込まれる。加えて、ユーラシアは地政学的に、欧州とアジアという二つの巨大な経済体を結びつけるかけ橋となってきた。

社会資本建設や輸送、採掘業は、これら地域の国々にとって、協力のための主要な要素である。この分野は、アジア開発銀行（Asian Development Bank: ADB）や新たに立ち上げられた機関であるシルクロード開発基金、アジアインフラ投資銀行などにより、金融面で手厚い支援を受けていることで知られている。

主要なエネルギーの消費者、供給者はユーラシア地域に位置している。従って、この地域の諸国は、エネルギーと石油の協調的な市場の形成の意義について合意している。輸送や社会資本はエネルギー、石油の協調的な市場形成を達成するための主要な分野である。それだけではなく、農業の分野で有機製品の生産を通じて将来的に収益が見込まれるような資源も存在している。従って、このような分野の工業団地や産業集中地帯を整備する過程を通じて、ユーラシア地域がより共通の市場を開放するべきである。

現在の主導者、計画と将来

ユーラシア地域において、言及すべき構想には、韓国の「ユーラシア・イニシアチブ」、ロシアの「ユーラシア経済連合（Eurasian Economic Union: EEU）」

と中国の「新シルクロード（一帯一路）」がある。

1. ユーラシア・イニシアチブ

2013年に韓国の当時の朴槿恵大統領は「ユーラシア国際協力会議」の席上で、この地域の国々の対話と協力をより強固にする目的で「ユーラシア・イニシアチブ」計画を発表した¹。この計画の主要な目的は、ユーラシアエネルギー供給網の形成であり、その第一段階として「シルクロードエクスプレス」さらにその先に、「北極路」の利用を実現することも目指しており、それにより、世界最大の国際的な経済統合の形成だけでなく、ユーラシア地域全体が統合されることになる。ユーラシアは、韓国の特に外交政策を注視し始めている。韓国の製鉄業者 POSCO、現代商船、韓国鉄道公社などが企業連合を設立し、試験的な事業運用を始めている。現在構想は、2016年のロシアと朝鮮半島の二つの地域における共同物流から韓国政府が引き上げることを決定し、解体の危機に直面している。

羅津-ハサン計画はロシア側の国境都市ハサンと北朝鮮の不凍港羅津の間を鉄道で結び、シベリアの石炭を海外に販売する経路を作り出し、確保するためのものである。韓国企業は2014年から2015年にかけて三回中国船籍の船で羅津経由で石炭を試験的に輸入する計画を行った。しかし、北朝鮮への制裁により計画はすべて凍結となった。

ソウルの制裁は、2016年1月6日の北朝鮮の核実験、ならびに2月7日の長距離ミサイルの発射に対する3月2日の国連安保理決議の採択に従うものである。北朝鮮大学院大学梁茂進教授がコリアタイムス

に語るところによると、「政府が公式にユーラシアイニシアチブを放棄することを宣言することは危険なことではあるが、独自制裁は不可避なものであり、朴氏の大きな外交目標が終わることを意味する」。

2015年9月にソウルで行われたユーラシアの輸送と物流網に関するアジア欧州会合（Asia-Europe Meeting: ASEM）のシンポジウムで、当時の朴槿恵大統領は「ユーラシアは、世界人口の75%を有し、世界の付加価値生産の60%を占める巨大な地域である。我々は鉄道や陸路、水路や空路をつなげた多様な輸送、物流網を要する新たな北極海輸送通路を開拓すべき時である」と宣言した。さらに、朴槿恵は、自身がこの計画の発足について、輸送基盤の建設投資が進むことや、国境の認識について各国が直面している問題に対する専門的な部署が立ち上がることを期待していると言及した²。ユーラシア・イニシアチブ計画は韓国、北朝鮮、ロシアの三つがそれぞれの視点からの協調関係を発展させることを可能にするものとなりうる。同時に欧州連合の国家間における現行の問題が、南方構想の実行を成功させる課題にもなりうる。

2. ユーラシア経済連合

ユーラシアでは、ロシアがいまだに強い影響力を保持している。従って、ユーラシア地域における経済統合の形成を目的として2015年5月にロシア、カザフスタン、ベラルーシが関税同盟から発展した EEU を設立した。アルメニアとキルギスが2015年にメンバーとなり、その後タジキスタンがメンバーの候補国となった。ウズベキスタンは、他の旧ソビエト連邦下の中央アジアの国々と比較して政治的な独立性を獲得

¹ ユーラシアを一つに：朴大統領（当時） <http://www.korea.net/NewsFocus/policies/view?articleId=129868>

² 脚注1に同じ。

してきたが、EEUとの自由貿易協定を締結する準備を進めている³。

EEUのメンバー国は、モスクワに対する制裁の影響を最小限にするという目的を持つ。例えば、ベラルーシは欧州製品をロシアに再輸出するというを続け、他方でカザフスタンは、両者の経済成長にとって利益になるような政策を指向し、経済、貿易、農業部門でのEEUとの協力をより深めることに集中することによって、ロシア市場への供給機会を最大にするための政策を作っている。従って、1億7千万人の人口を有するユーラシア市場は、カザフスタンにとってより多くの利点がある。EEUはより多くの国に参加を募った後、残りの国々との間で自由貿易協定を進めている。ベトナム、エジプト、中国、インドは、現在、自由貿易並びに自由貿易協定（Free Trade Agreement: FTA）の大枠合意の締結過程に入っている。これらの国々の中で、ベトナムは積極的な役割を果たしており、FTAの合意に署名している。

2015年、ドミトリー・メドベージェフ首相はロシア経済発展省、ロシア外務省、ロシア中央銀行他、行政部門により提出されたEEUとそのメンバー国と共にベトナムへの貿易を支援するという提案書に署名した。メンバー国は、協定が実効性を持つことで、市場の回転を促進し、貿易を活発にすると共に、経済的な対話、アジア太平洋の地域統合を伴うEEU間の関係をより緊密にする機会になるとみている。協定の内容にみられるように、EEUのメンバー国とベトナムでは、特定品目を対象として貿易関税が撤廃される。しかしながら、EEUは一部の品目につき関税障壁を設ける権利を有している。さらに、検疫体制、制裁への関与、越境貿易の管理と製品の規格や競争政策、インターネット取

引などに関連する分野の条件についても言及している。最初に協定が調印されたのは、エジプトもEEUとの間で自由貿易協定に向けた調査を進めている段階である。2014年のロシアとエジプトの間の貿易額は、4.5億ドルを超えており、前年比で80パーセント以上の増加を示している。今や、エジプト製品はロシア、ベラルーシ、カザフスタン、アルメニアに届きやすくなっている⁴。

3. 一帯一路構想

「一帯一路」計画は、ユーラシア地域における先導的な開発計画となりつつある。中国とロシアは、シルクロード地帯（中国）とEEU（ロシア）を結びつけることによって、より強固な戦略的開発計画とすることを図っている。このプロジェクトでは、欧州での投資と「シルクロード基金」の利用が計画されている。英国、ドイツ、ポーランド、チェコスロバキアは協力の覚書を交わし、その計画は、アジア諸国により効率的に向けられるように動いている。例えば、中国は、韓国との間の協調的戦略の強化や、中国の「シルクロード」とモンゴルの「草原の道（Steppe Road）」計画の協調を強化している。さらに、社会資本建設分野では、東南アジアの国々において、他の多くのプロジェクトと同様一定の成果を得ている。例えば、中国-インドネシア間の高速鉄道や、中国-ラオス、中国-シンガポール間の高速鉄道がすでに計画段階にある。中国-パキスタン間の経済回廊の基本方針はすでに特定されており、そこから他の大規模な計画も実行に移されることになる。「一帯一路」計画が始動して以来、20カ国以上が協力協定を交わし、中央アジアのほとんどの国は、この計画での協力について、交渉を行っている。

前述の通り、中国は、「シルクロード」構想の開始と、ロシアと中国の共同声明で言及されたような、二つの（経済）統合が共に進んでいくような計画との協調を目的として、EEUとの間の自由貿易協定の締結を準備している。

4. 中央アジア地域経済協力 （Central Asia Regional Economic Cooperation: CAREC）

6つの多国間での協力組織による、共同開発を通じて、10カ国からなるメンバーがユーラシア地域における開発、貿易と商取引を促進することを目指し、貧困からの脱却、今後10年間の経済成長率を最大にするための積極的な行動を起こしている。CAREC2020計画の戦略的な枠組みでは、「良き隣国、良き協力者、良き展望」という未来像に到達するために、2つの戦略的目標が提示された。一つは、貿易の互惠関係の促進、輸送の社会資本の改善、人と物の往来に係る手続きの簡略化、開放的な貿易政策の実行と多国間エネルギー供給の促進に重点を置いている。二つ目は競争力の改善、公益事業サービスと物流サービスの促進、経済回廊の推進、新しいサービスや仕組みの導入、メンバー国間の協調的エネルギー開発に重点を置くということである⁵。

この計画の目的に到達するために、融資の意思がある主体にとっての投資機会を積極的に探し、特定の期間内に、一定の成果を実現することが可能となるような事業を選定することに注力している。2014年に224億円の費用を投じて、146の事業が問題なく実行された。これらの事業は、輸送、貿易（手続き）の簡略化、貿易政策、エネルギー資源の4つの部門における協調的な枠組みを基礎としている⁶。

³ 以下の内容を含む

EEUの範囲で、契約中の協定によれば、関税は、キルギスへの財貨には1.9%、カザフスタンの財貨に課す関税は7.0%、ベラルーシへの財貨には4.7%、アルメニアの財貨に対しては1.3%となる予定である。その他、ロードマップ準備のためにキルギスタンに対して3億ドルを、カザフスタンをEEUに勧誘するための準備資金としてロシアがカザフスタンに3億ドルを拠出。ロシア-キルギスタン同盟協力基金から、キルギスタンは、1億ドルの無償援助を得ているが、2016年、ロシアから追加的な4億ドル、他の隣国から1億ドルをそれぞれ得ている。

もしキルギスタンがEEUのメンバーとなるならば、中国からの輸入品の量は、他の国々ではかの輸入品目が増えたように増えることが予想される。キルギスタンの再輸出は、自らの国民所得に負の影響をもたらす。しかし、キルギスタン政府が目指しているのは、中国が仮に新しい工場を設立し、よりキルギスタンの輸入品価格を低く設定することになれば、キルギスタンが状況を好転させるための機会をもたらすだろう。

キルギスタンがEEUのメンバーになることによって、キルギスタンが工場の閉鎖を伴う生産設備の再構成を行い、農業生産について再度計画を策定することを可能にする。およそ100万人の労働者がロシア、カザフスタンを、そしてユーラシア中に移動していくことになる。

⁴ エジプトはEEUとの自由貿易協定設立の緒に就いた。<https://financialtribune.com/articles/world-economy/10994/egypt-to-set-up-ftz-with-eeu>

⁵ 「CAREC-2020」<http://www.careprogram.org/uploads/docs/CAREC-Publications/2012/CAREC-2020-Strategic-Framework.pdf>

モンゴルの関心と参加の機会

モンゴルの地政学的な環境は、中央アジアの東と西をつなぐ輸送・物流センターとなる機会をもたらす。モンゴルが地域のネットワークを構築する役割を果たすために、その隣国と積極的な関係を維持していくことは、いっそう重要となる。近年、海に接していないということや、道路輸送や社会資本の未発達、外国貿易の促進や資本投入の面で悪影響を及ぼした。このことは、輸出産品の価格も左右し、モンゴルに景気後退をもたらした。モンゴルは、139カ国と貿易を行い、外国貿易総額は、110億ドルに到達し、そのうち輸出が58億ドル、輸入が52億ドルである⁷。しかしながら、外国貿易額、特に近年輸出額が急激に減少しており、その理由として輸出の量と価格の両方の落ち込みが挙げられる。従って、これらの課題を克服するために、輸送や社会資本の発展は、モンゴルにとって重要である。

北東アジアにおいて、北朝鮮の核問題を解決することなしに、多角的な貿易や経済的な協調を推進することは、今後まだまだ時間がかかることが予想される。しかし、ユーラシア地域における地域間の道路輸送ネットワークの必要性は増している。近年、モンゴルはロシア、中国、韓国、北朝鮮と日本とのエネルギー、輸送、物流、安全保障関係をより強化している。

信頼関係の強化と北東アジアの安全保障の仕組みを構築するために、モンゴルは多くの提案と構想を提供し、外交的

な行動を起こしてきた。その一つがモンゴルのエルベグドルジ・ツァヒアギーン大統領による「ウランバートル対話」であり、これは、北東アジアの国々による協力の仕組みを構築するためのものである。この対話は、政府間の友好関係を広げていくという方向性だけでなく、自治体や民間経済主体、国民も対象としている。モンゴル大統領の構想は、平和と信頼関係の強化というユーラシア・イニシアチブの目的と同じ方向にあり、より緊密な協力関係を構築し、協力的な行動を起こしていくことが二国間で必要となる。

モンゴルの発展と経済を確固たるものにするために、安全で信頼に足る、安価で高速な現代的な鉄道と道路は、より重要性を増してきている。加えて、国内のエネルギー網をより拡張すること、二つの隣国の領土を通過する際の有利な条件を獲得すること、国際的な物流と輸送センター並びに港湾を整備することが望まれる。当時の朴槿恵大統領の推し進めていた「ユーラシア・イニシアチブ」は、輸送とエネルギー部門におけるモンゴルと韓国の協力を進める機会を生み出した。また、モンゴルとロシア、中国との協力は特に外国市場への接続と高く安定的な経済成長を確実にするという観点から、モンゴルの発展に寄与してきた。

• 先日のモンゴルのエルデネバト・ジャルガルトルギーン首相とティグラン・サルグシャンEEC議長との話のなかで、モンゴルはEEUとの間で自由貿易協定 (Free Trade Agreement: FTA) を結ぶこと

を提案していると報じられた⁸。報道発表によると、6月1日から3日の間のサンクトペテルブルク国際経済フォーラムの場で行われた対話の中で、両者は2年間の協力の結果を歓迎したとのことである。

両者間で貿易、経済協力の覚書締結から、具体的な相互貿易強化と貿易障壁の除去の調査に到るまでの実質的な協力の過程に入るには、かなりの長い時間がかかった。2月に第2回のモンゴル-EEU 協力ワーキンググループが開催された。両者は2017年から2018年までの貿易政策、税関管理、公正な競争などについての行動計画を盛り込んだ。

我々の主要な目標は、EEUとの話し合いにより、ユーラシアの輸送・物流網を構築することであり、このことが、貿易と経済の分野の越境協力を推進する原動力になるだろう。

• モンゴルは、一帯一路構想における重要な回廊にあたる。モンゴルは中国、ロシアとの友好関係と、協力の支持を優先する。モンゴルは、現在うまく作用している隣国との三カ国関係をより進めることを構想しており、モンゴルが一帯一路構想に参加することに対して喜びを表している。モンゴル-中国-ロシア経済回廊計画の中で、我々は資金調達の問題やこのプログラムにより左右される32の事業を実現するために積極的に行動している。

中国が主導する一帯一路構想と、モンゴルの「道路発展戦略」は、多くの

⁶ 詳細は、2013年の第12回大臣会合の「部門の方向性と実行計画の進捗に関する概要：輸送と貿易促進部門」にある。カザフスタンの首都アスタナで開かれた2013年の第12回大臣会合では、2020年に向けて優先的に貿易と輸送を促進するという戦略目標が賛同され、以下の3つの目標が提案された。

1. 多国間開発回廊網：輸送回廊を拡張し、鉄道網の運用と関税に関する会合を進めていく
2. より高次の貿易と越境サービス：オンラインで外国貿易を行う窓口を管理し、また動植物由来の製品の安全性が確保されるように見直し、食品加工品の安全性を高めるなど、国境関連の管理を提供する
3. 維持管理についての計画：これは鉄道の配置、資金調達と管理運営の方法、交通安全管理システムの実用化と民間部門の活用からなる

道路輸送部門：2013年に実行された98の事業に対する18兆ドルの投資に加えて、貿易の簡素化に注目し、2002年以来268億ドルの投資により13の事業が実行された。上記の3つの目標を基にして、2014年から2016年の間に108の事業実行のために388億ドルの使用が予定された。

貿易政策部門：第12回大臣会合で、2013年から2017年の間に実行される以下の5つの戦略目標が決定された。

1. 貿易構造の発展を目的とした能力開発訓練の設計
2. 世界貿易機関からの融資を増加させるための人材育成の計画
3. 貿易自由化と貿易環境の向上
4. 植物（検疫）と禁止事項の緩和並びに貿易に関する技術的問題の縮小
5. サービス貿易部門の成長促進

エネルギー部門：

1. エネルギー需給の均衡と効率的なエネルギー使用、再生可能エネルギーの需要の制御、取引を通じて資源拡張の機会を求める
2. エネルギー分布と地域における調整者の問題を解消する
3. エネルギーと水の関係について調査する

地域におけるエネルギー網構築について、エネルギーの取引に関する420億ドルに相当する33の計画が実行された。

⁷ 「2014年のモンゴルの外国貿易が5億3790万ドルの収益に到達」より。http://www.dbm.mn

⁸ 「モンゴルはユーラシア経済連合との FTA に調印過程の段階へ」 http://mongolianeconomy.mn/index.php/en/i/9978

共通する概念と内容を含んでおり、二国間における協力関係にある明るい未来が予想されている。一帯一路構想は、資源、技術や専門の技能を隣国、あるいはその他の地域と共有するためのものである。

地理的に一帯一路構想の陸路に沿っていることから中国とモンゴルが協力することは、一帯一路構想が進む上で重要である。

モンゴルは2014年に、中国とロシアをモンゴルを通じて陸路、鉄道、石油パイプライン、ガスパイプライン、送電線の「5つの線」で結びつける「プレイリーロード」計画を提案した。2017年5月12日には、習近平氏がモンゴルのエルデネバト・ジャルガルトゥルギーン首相と北京で開かれた国際協力のための一帯一路フォーラムの席で会い、モンゴルが中国とロシアの間の架け橋となることを中国が支持することを伝えている。従って、中国-モンゴルの総合的な協力は、互いの利益となることが見込まれる。

その他の重要な事実は、中国とモンゴルが経済的に補完関係にあるという点であり、協力関係であることが理想的な姿だという点である。中国は10年以上の間、モンゴルにとって最大の投資と貿易の相手国である。モンゴルは主に天然資源、毛皮、原材料を中国に輸出し、中国からは、ガス、軽油、食品や機械、装備品を輸入している。

他の途上国同様、モンゴルは天然資源採掘に期待する初期段階であり、今後の産業開発を求めている。従って、中国からの投資資金と採掘業における技術を必要としており、このことがモンゴル経済の重要な柱となる。一帯一路構想は、天然資源、社会資本建設や二国間の結びつきを強めるような、様々な分野での協力の深化を推進することにより、モンゴルにとって大きな機会をもたらしている⁹。

- 2002年にモンゴルが CAREC に参加して以来、総額2億5600万ドルに及ぶ8つの事業が実行された。例えば、西部地域の垂直（南北）道路、アルタンブ

グーザミンウードの道路計画、ザミンウードの物流施設であり、税関データベース改善を含む税関システムの改善や、国境都市の社会資本建設の改善などであり、それぞれを ADB が承認、融資している。2014年から2016年までの間に、13億ドルの支出を見込むこれらの構想との整合性を考慮しながら、およそ10の事業が選択された。それらの中から、ADB は、1億3000万ドルを、「地域間の道路、物流センターの建設」、「国をまたぐインターネットを通じた商取引サービスの導入」、「税関能力の向上」、「動植物由来の製品、食品の安全性に関する検疫手続きの向上」についての4つの事業に融資した。これらの事業の実施は、モンゴルが巨大なユーラシア市場の一部になる一助となるものである。

モンゴルは、自動車や鉄道によるアルタンブラグーウランバートル-ザミンウード-天津の輸送回廊を通じた出荷の際の経路と費用の情報収集を逐一行うなど、技術協力の計画について着実に実行してきており、輸送時の困難についても検証してきている。

経済的な競争力と発展の強化を目的として、ADB は、地域間の統合と協力を推し進めるための以下のモンゴルの構想を支持している。

- (1) 輸送回廊の拡張と貿易手続きの簡素化を行うことで、決定的に他国との貿易、投資関係を発展させる
 - (2) 官民連携 (Public-Private Partnership: PPP) 方式を加速する機会を模索することで、エネルギー部門、エネルギー資源を輸出指向に発展させていく
 - (3) 地域間の対話をより容易に行うようにすることで、環境保護、伝染病の予防などの国境をまたぐ問題や課題を解決していく
- 加えて、ADB はモンゴルに対して、融資を行い、以下の国家規模の構想と計画の実行を支援している。
- (a) 輸送部門：道路の補修計画や、道路部門の生産能力の強化、都市間輸送計画

- (b) エネルギー部門：ウランバートルの熱、電気、エネルギーの供給計画、再生可能エネルギー計画、域内エネルギー計画における戦略
- (c) 都市、水供給部門の発展：水供給、衛生、その他都市行政と都市発展に関する計画

結論

ユーラシアは天然資源と人口、経済資源において豊かな地域である。石油や天然ガス、レアアース、非鉄金属は、現代型の経済と技術の発展をもたらす資源である。地政学的な状況から、ユーラシアは、欧州とアジアという二つの巨大な経済帯を結びつける懸け橋となる。

社会資本建設、輸送と採掘業と地域経済協力が、大部分で重なるということは間違いない。投資は、これらの部門に集中していくだろう。しかしながら、ADB や、新たに設立されたシルクロード基金や、ユーラシア開発銀行、アジアインフラ投資銀行などは、潜在的に最も積極的な計画の支援者となるだろう。

言及すべき構想として、韓国の「ユーラシア・イニシアチブ」、ロシアの EEU、中国の「一帯一路」がある。ユーラシア地域において、「一帯一路」は、これらの国々や地域において、先駆的に協力を進めていく基盤であるとみられている。我々の隣国であるユーラシアで最も力をもつ二つの大国は、中国の経済成長、経済発展、金融資源と金融的な強みを用いて、EEU、上海協力機構 (SCO) や集団安全保障条約 (Collective Security Treaty Organization) の枠組みの中で、彼らの協力を進めていくことに同意した。

我々は、より大きな理想を持つべきであり、出遅れることやこれらの計画、構想から得られる機会を逸してしまうことに積極的に抗うべきである。北東アジアにおける対話の枠組みや、CAREC の枠組み内で計画を進めてきたが、これまでのところ、我々のユーラシアにおける存在感は弱い。

[英語原稿を ERINA にて翻訳]

⁹ ADB は、モンゴルの食料の安全管理と輸出を推し進めることを支援する。 <https://www.adb.org/news/adb-supports-mongolia-s-drive-boost-food-safety-exports>